



全国植樹祭とは

全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。

6月4日、「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」をテーマに、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、高田松原津波復興祈念公園（岩手県陸前高田市）で「第73回全国植樹祭」が開催されました。岩手県では、昭和49年5月19日に八幡平市で「第25回全国植樹祭」が開かれており、今回の大会は2回目の開催となります。

式典前のプロローグでは、宮沢賢治の童話から「^{けんじゅう}虔十公園林」の朗読で招待者を「イーハトーブいわて」の世界へと誘い、東日本大震災津波からの復興の歩みを映像で紹介し、国内外からの復興支援に対する感謝と、震災の教訓を世代を超えて引き継いでいくことを誓う、「感謝のメッセージリレー」が披露されました。

式典では、天皇陛下から「かけがえのない森林の大切さを思うとき、苗木を植え、大切に育て、そして、未来を担う若い世代に健全な森林を引き継いでいくことは、私たちが果たすべき大切な使命であると考えます」とのおことばを賜りました。また、大会会長の細田博之衆議院議長（国土緑化推進機構会長）及び達増

拓也岩手県知事があいさつされたほか、全国の緑化功労者や各種コンクールの表彰が行われ、野村哲郎農林水産大臣などへ緑の少年団から苗木の贈呈が行われました。贈呈された苗木（南部アカマツ）は、大会会長や野村大臣などにより記念植樹が行われました。

両陛下のお手植えでは、天皇陛下が南部アカマツ、カシワ、タブノキの苗木を、皇后陛下がベニヤマボウシ、ハナヒョウタンボク、ミチノクナシの苗木をお手植えされました。また、天皇陛下はオオヤマザクラとケヤキの種を、皇后陛下はヤブツバキとハマナスの種をお手播きされました。

最後に、濱田純一国土緑化推進機構理事長が大会宣言を行い、達増拓也岩手県知事から来年全国植樹祭が開催される岡山県の伊原木隆太知事に、全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」が手渡されました。

次回の第74回全国植樹祭は、来春、岡山県のジッパアリーナ岡山を主会場に開催される予定です。



おことばを述べられる天皇陛下



タブノキをお手植えされる天皇陛下



ハマナスをお手播きされる皇后陛下



緑の少年団にお声がけされる皇后陛下



記念植樹をする野村農林水産大臣（右から3人目）
提供：第73回全国植樹祭岩手県実行委員会

